



一般社団法人 札幌 YWCA
〒060-0807
札幌市北区北7条西6丁目
北海道クリスチャンセンター内
Tel & Fax: 011-728-8090
E-mail: sapporo@ywca.or.jp
振込先: ゆうちょ銀行
加盟者: 札幌 Y.W.C.A
番 号: 02710-9-49613

標語: 「知る力と見抜く力とを身に着けて、あなたがたの愛がますます豊かになり、本当に重要なことを見分けられるように。」
(フィリピの信徒への手紙 1 章 9 節 b、10 節 a)

新たな歩みに向けて

札幌YWCA会長 高橋 洋子



昨年の総会で審議されました藤井由里さんからの「ブックカフェ」寄贈の申し入れを受け、札幌YWCAの不動産として正式に登録等事務手続きが2017年2月完了致しました。それに伴い来る4月8日オープンセレモニー開催の運びとなります事、喜びをもってご報告申し上げます。ご寄贈下さった藤井由里さん、そしてこれまでの札幌YWCA諸先輩の働きのおかげにより「壘・つながる・重なる」場としてここに与えられました事深く感謝申し上げます。更に札幌バプテスト教会の駐車場をも使わせて頂けるという有難い申し入れにも背中を押される感謝の想いです。

会長の任を受け10ヶ月、キリスト教を基盤としたこの会が携わる事業は、ピースアクション（非暴力による平和な社会の実現を目指す）、フォローアップスクール・SEED（子ども及び青少年の権利を守り、発達を支援する）、チャリティーバザー・神愛園訪問など（高齢者、障害者等、支援を必要とする人々に対する福祉）、カフェ運営・ケーキ焼きなど（女性のエンパワメントおよび社会参画を推進する）、聖書を学ぶ会・世界YMCA.YWCA合同祈禱・世界祈禱日・クリスマスフェスタなど（思想の自由、信教の自由及び言論の自由を尊重し擁護する）、書道教室・英会話教室・フランス語教室・体操教室・そろばん教室など（生涯教育を推進し、人材を養成する）等々多岐に渡っています。何れも多くのボランティアの働きによるものですが、年を重ねる毎の綻びも生じてきている事是否めない事実です。

特にカフェボランティア不足は、近々に解決せねばならない課題だと感じております。然し壁にぶち当たった時こそ、それぞれが持ち合わせた宝を磨くべく用いて頂いているという原点に立ち返り、今できる事を丁寧に積み重ねて歩むことが明日への1歩だと考えています。

(2面に続きます→)

第7回 一般社団法人札幌 YWCA 定期総会の公告

札幌 YWCA の定期総会を以下のように開催しますので、今から御予定くださいますようにご案内いたします。

- 日 時 2017 年 5 月 20 日 (土) 午前 10 時から午後 2 時
- 会 場 Y's Café
- 議 案 2016 年度活動報告と 2017 年度活動計画案について
2016 年度 会計決算報告と 2017 年度会計予算案について
その他

札幌 YWCA 理事会

転じて世界情勢は21世紀に抗うような国々のリーダーの傍若無人な振るまいが蠢き、それに地球全体が包み込まれ振り回されているような気がしてなりません。然し、静かな祈りをもって世界の隅々に目をとめるとき、戦争、飢える人々、難民が後をたたず、女性・子どもたちが犠牲になっていること、未だ原発問題は何ら解決されていないことを忘れてはならないのです。

札幌YWCAは確かにブックカフェ壘という不動産を与えられました。これは大いなるものよりお預かりしている物件ですから、この場を社会・地域に用いて頂けるようみんなで大切に育てていかなければならないと思っています。また2017年より新規に始める札幌市のピースマップ作りは、戦争体験者が高齢化している中であって、平和を作り出す者として、足元をしっかりと見つめ直す大切な機会です。この働きは未来の平和の架け橋となるでしょう。

そしてこの会が誇れる1番の財産は“人”です。目の前にある困難を一つ一つ乗り越え実践していくならば、力が与えられ人が与えられ次代の若者の育成に繋がっていくものと確信しています。



Y's Café 便り

☆馬頭琴ミニコンサートの様子 (2/25 土曜日)



窓の外は雪がちらちら、カフェ内は3歳～90歳代と幅広い年齢層 20人ほどが嵯峨治彦さんが演奏する馬頭琴の音色に酔いしれました。

☆初めて馬頭琴のコンサートを聴いて感動しました。あと1と月で札幌を離れるけれど凄い思い出になりました。(9歳) ☆音も癒し系で、あのカフェの雰囲気であってよかった。(70代) ☆心も体も弱っている時だったのですっぱり体に入ってきて、雪の中出かけてきたかがありました。(60代)

☆目をつぶって聴いていたら、モンゴルの大自然のなかにいるようでした。演奏家の嵯峨さんの持つキャラが素敵でファンになりました。

(50代)

☆弦を抑える指に集中する姿を見ながら、馬頭琴に熱中できる嵯峨さんは万年青年なんだろう

なと思いました。倍音をみんなで練習しましたが、お話されていた北大の農場で夕方倍音の練習していた嵯峨さんの姿がイメージできました。

(50代)

☆もっと多くの皆さんに馬頭琴の演奏を聴いてもらいたいと思いました。(80代)



☆大人気！『憲法カフェ』 (1/28 土曜日)

第4回憲法カフェ講師は、志堅原郁子さん(NPO ピーチハウス)でした。

志堅原さんより「企画してくださった YWCA の皆さん、そして寒い中、講座に足を運んでくださった参加者の皆さんへの感謝申し上げます」とのお言葉を頂いています。

来月号のニュースレターで、志堅原さんの寄稿を掲載させていただきます。



次回、第5回憲法カフェ 3月11日(土) 14:00~15:30

講師：北村 巖さん「大逆事件を読み解く～この教訓から共謀罪を考えるために～」

聖書を学ぶ会 1月

2017年1月17日(火) 14:00~ @Y's Café
ルカによる福音書第9章
雨貝 行麿牧師(北海道クリスチャンセンター館長)



弟子たちは、イエスさまから「日々、自分の負うべきこと」を示されました。わたしどもも、与えられた生涯において負うべきことがありますね。「負う」とは「責任」とも言えます。それを神さまが与えることとして、逃げないで、安全な道ではなくても、それが神さまから選ばれて与えられた道であるならばしっかりと背負いなさい。神さまに「お応え」なさい、です。わたしどもが見ていても、安逸で、しかも人間としてだらしないことが多々あります。ほんとうに恥ずかしいことが、しかもたくさんありそうですね。心したいものです。

さてここでモーセ「律法」とエリヤ「預言」とが、イエスさまのエルサレムでの最後のできごとを語られました。新しい時です。

そんなときに弟子たちは、イエスさまが「神々しいまでに輝く瞬間」出会いました。昔から言い伝えられたモーセとエリヤの登場です。言い伝えは真実でした。その真実の証が示されました。ですが弟子たちには受け止めかねるできごとでした。

イエス様は祈ります。ルカは つねづねイエスさまが、大事な時には「祈る」ことを語って聞かせています。その祈りのとき、弟子たちは眠ってしまいました。新共同訳では「眠いけれど寝ないで我慢した、と訳していますがそれは本文ではありません。ペテロは、はっきりと目覚めます。するとそこに2人に人が見えた。ペテロは、思わず先走って「あなたとモーセとエリヤのために天幕を作りましょう」。祭壇をしつらえ、祈りの場を作る、と叫びました。しかし事態は、彼らが眠っている間に先に進捗します。律法と預言から、直々に、イエスさまに到達しているのです。ひとが天幕をつくるよりも、「天から」声が届いたのです。「これは私の子、選ばれたもの、これに聞きなさい。」。そこにイエスさまだけがいました。弟子たちにとっては、いい伝えを超えた、事態に直面しました。衝撃的でした。

昔からの言い伝え、そのことが目の前におられるイエスさまに実現する、このことは、あまりにも近いが故でしょうか、弟子たちにとっては理解不能な現実です。何とかして理解しようとして、イエスさまをめぐるいままでのことどもを自分たちの知識と、そして経験から理解しようとして飲み込み、反芻していました。繰り返し、弟子たちはそのまま飲み込んで、胃の中からおしだしてもういちど味わってみようとしています。

弟子たちは、まだイエスさまのことが分からなくなった。

でもわたしどもはどうでしたか。初めは、イエスさまは素晴らしい方だ、よいお話で励ましてくださる。でもその方がご自身から「終わりはエルサレムで十字架にかかり、死んで葬られ、三日目によみがえる。」わかりませんでしたね。

わたしも、若い時、教会に導かれ、信徒の方々に出会い、恵まれました。わたしの新しい出発でした。

いま、なお新たに、イエスさまが、命を懸けて、わたしどもの罪のために十字架におかかりになったことが何物にも代えがたい恵みであること、それがわかります。

2017年、主に恵みの年です。代えがたい慈しみにこころを新たにしたいとおもいます。

<会員募集のお知らせ>

会員・会友：YWCAの目的に賛同し、活動を希望する女性の方はどなたでも会員になれます。

会費：月額1,000円

男性の方には会友の制度がございます。詳細はお問い合わせください。会費：月額600円

賛助員：会の目的にご賛同くださる方はどなたでも、ぜひご協力ください。

個人(1口)年間3,000円 団体(1口)年間10,000円

購読会員：日本YWCAの機関紙と札幌YWCAのニュースレターをお届けします。年間3,000円

聖書を学ぶ会 2月

2017年2月21日(火) 14:00～ @Y's Café
ルカによる福音書第9章37節
雨貝 行麿牧師(北海道クリスチャンセンター館長)



イエスさまのガリラヤでの活動が生き生きと描かれています。

イエスさまは、選ばれた弟子たちを「使徒」として育て、派遣するためにいつもかたわらにおいておられます。ガリラヤで生まれ育ってきた人々です。わたしどもの信仰の大先輩たちです。

ガリラヤから付いてきた弟子たちは、イエスさまのなさることに驚いています。今まで経験したことのないことだからです。でも彼らなりに懸命に理解しようとしています。でもわからないのです。それでもイエスさまと行動を共にしています。イエスさまと共にいることがうれしかったからです。でもイエスさまのことがわからない。ほんとうにイエスさまがわかるようになる、ということはイエスさまを力ある方と信じることができるようになってからですね。

イエスさまたちが、山を下りてこられるのを待ちかねたようにしておおきな声が響きます。「ひとり息子をたすけてください。」実はもう弟子たちにはお願いしたのです。でも彼らには助ける力はありませんでした。イエスさまに直接頼むしかない。父親は、後継ぎの子なのです。それだけに神さまは放置をなさることをしない。ユダヤでは後継ぎはすべての(信仰の)継承者です。神さまに直接訴えればお応えくださると信じていたのです。

なぜ弟子たちにはできなかったのでしょうか。

弟子たちはイエスさまの近くにしながら、イエスさまを理解できませんでした。いま弟子たちは助けることができませんでした。

イエスさまは、嘆きます、「なんと不信仰な、よこしまな時代なのか。」ご留意ください。弟子たちの信仰のなさではないのです。イエスさまのご発言は「時代」に対して語られています。これはパウロのフィリピの手紙でも語られている言葉です。新約聖書の表現とっていいでしょう。

わたしどもは時代の子です。歴史的存在ともいえます。時代の風潮に影響されます。時代の中で、しっかりと生きながら、しかし、その時代の状況を自分の信仰との関わりで見据える、ということでしょうか。時代に流されると自分の位置を見失います。

弟子たちは、イエスさまを理解できないからその力もわからないのです。

イエスさまは、いま子どもの病に立ち向かいます。イエスさまの力は、山で祈ってきた、その祈りによって培われた力です。

イエスさまは、皆の前で子どもを癒されました。そしてイエスさまは語ります。人間の世界の、祈らない状況をまのあたりにして、いよいよ、父なる神は、そのご計画をなさろうとしておられる。信じるこそが人生の支えです。祈ることがすべての力です。

神さまは、そのご計画を実行しなければ、この時代の中に生きている、将来性のある子どもたちは、まともに生きることができないのだと。祈ることができない、それは隣人のための働きができないということでした。

わたしどもの信仰の先輩たちもご苦労していたのです。祈りが力にならないからといって祈ることをやめてはなりません。

☆次回は、3月21日(火) 14:00～の予定です☆

☆SEED 博物館見学

去る1/21(土)に北海道大学総合博物館への訪問プログラムを行いました。

参加者は小学生10人、SEEDメンバー6人でした。本プログラムではSEEDメンバーがあらかじめ作成したクイズやミッションにしたがって見学を進めました。昨年の夏に博物館がリニューアルオープンして以来、今まで以上に惹かれる展示物が増えたからクイズやミッションが終わっても時間ぎりぎりまで見学を楽しむことができていたようです。

さらに開催に際して、北大公認サークル Mouseion の方々が展示物の解説をしてくださり、理解を深めることができました。

☆フォローアップスクール旭山動物園見学（2/25 土曜日）

いつもは、「朝起きれない！絶対無理！」と、あれほど豪語していた生徒が、しっかり 8 時 50 分の集合時間にやって来ました。

「明日は早朝に起きてお弁当をつくるの」と、前日の勉強もほどほどに、お弁当作りを楽しみに帰っていた生徒がいました。

「集合時間に遅れたら、バスは待ってられないから、置いて行くよ」と前日に忠告すると、走って到着した生徒がいました。

お母さんやお父さんに送られて、不安そうにやってきた小さな生徒たち。「おはよう」と声をかけるとにっこりしていました。

お天気は、晴れ。さあ、出発です！

行きのバスはなんとなくシ〜ン・・・としていましたが、肌を刺す寒さであるにもかかわらず、旭山動物園に入るとすぐに、好きな動物たちのところに走って行きました。見学できないと思っていたペンギンのお散歩に間に合うと、「かわいい！」の歓声が上がり、ゆっくりヨチヨチと歩いてくるペンギンたちを見て

「こんなに間近に見たの初めて♪」と目をキラキラさせていました。爬虫類大好き男子と女子は冬眠中のヘビを見て「教科書通りだ」と感心し、ゴリラが興奮して目の前のガラスに体当たりするのを見て「仲間だと思われてるね」と大爆笑し、フクロウに癒されたり、雪の上の“白い雪うさぎ”を必死で探してみたり、「いつもは嫌いだけど、舎の中のカラスはちょっとかわいそう・・・」「道外の人にはキツネは珍しいんだね。そこら辺にいるのにね（笑）」「ホッキョクグマでも滑るんだね！」と、いろいろな動物に目を輝かせ楽しんだ動物園でした。

帰りのバスの中は、すっかり疲れて寝てしまうのでは・・・と思いましたが、笑い声と話し声にあふれていました。

参加した生徒の中には、不登校で修学旅行など経験できなかった生徒もいます。このような機会を与えて下さった『札幌市子ども未来局』の補助金に感謝いたします。

（写真撮影：参加した生徒たち）



追記

*「大学 2 部に合格しました！高校に行けなくて回り道をしたけど、目標を見つけて一歩前進することができました。ありがとうございます！」と電話がありました。彼女は、中学生の時から不登校で、高等学校卒業程度認定試験合格に向けて通って来ていました。合格してから 1 年半、まじめに勉強した努力の結果です。嬉しいです。

*旭山動物園に参加した北大 1 年生は「今回の試験、学部 2 位でした！」と満面の笑顔で報告してくれました。頑張ったね！みんなの励みになります。

*昨年末から「ちょっと学校のプリントやってみようかな・・・。ここでなら出来そうな気がする」と生徒が言うので、担任の先生に連絡をしてプリントを送っていただきました。先月、担任の先生と臨床心理士 2 名と懇談する機会を持ち、その後、学校からの申し出でフォローアップスクールの教室で三者懇談が行われました。担任の先生と生徒が会うのは 2 度目だそうです。少しずつ変わってくるでしょう。

*春期講習『3 日間だけ頑張ろう！』のチラシを同封しています。ご覧ください。

*いつも差し入れをありがとうございます。これからもよろしくお願いいたします！

*伏見教室の様子

2016 年 9 月 16 日から『伏見教室』を開講しております。現在は、金曜日 13:30~16:00 のみ開講していますが、今後は曜日を増やす予定であります。（参考記事：1 面「新たな歩みに向けて」）

場所：札幌市中央区南 22 条西 15 サニークレスト札幌 1F

